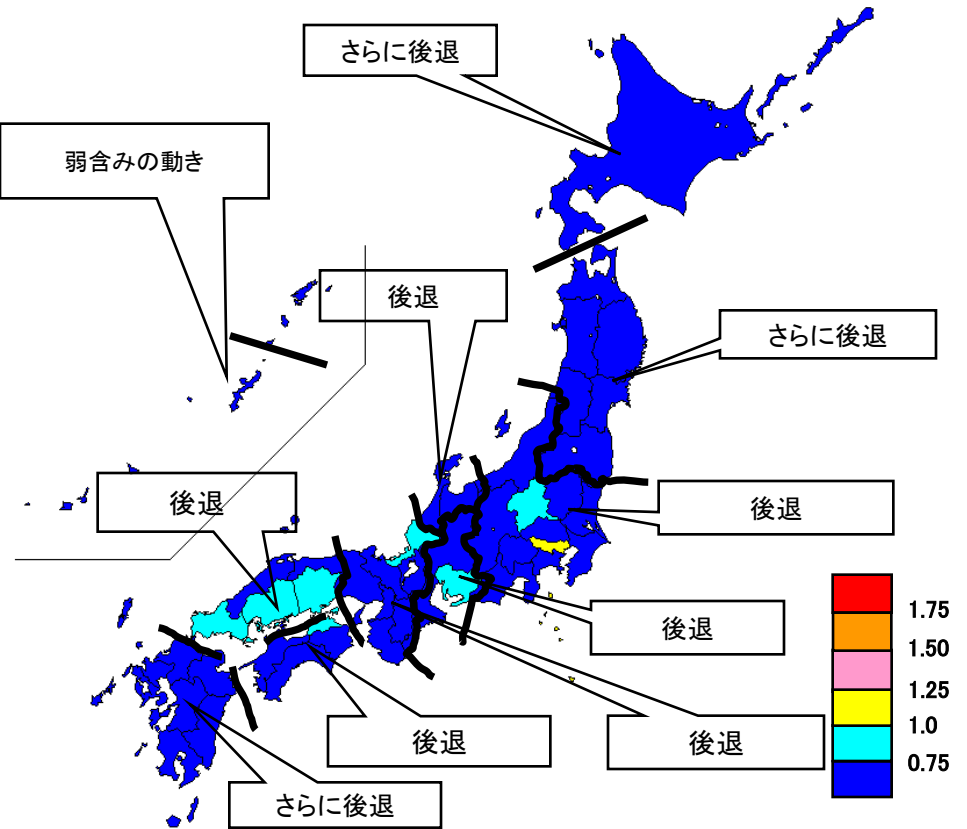


主要地域で業況が急速に悪化

～ 生産は急速に低下、設備投資は抑制・先送りの動き、雇用も一段と厳しい状況に ～

| | 20年2月 (第23回) | 20年6月 (第24回) | 20年9月 (第25回) | 20年12月 (第26回) | 21年3月 (第27回) |
|----|------------------------------|----------------------|-------------------|------------------|-----------------|
| 全国 | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |
| | 緩やかな改善傾向にあるものの、一部に弱い動きがみられる。 | 概ね横ばいで推移するも、一部に弱い動き。 | ばらつきがあるものの総じて弱い動き | 一段と弱い動き | 後退 |

| | 19年12月 (第22回) | 20年2月 (第23回) | 20年6月 (第24回) | 20年9月 (第25回) | 20年12月 (第26回) | 21年3月 (第27回) | コメント | 有効求人倍率 ※ 全国平均 0.67 |
|--------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|-----------------|---|--------------------------|
| 北海道 | → | → | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | 生産は急速に低下。設備投資に抑制の動きなど需要面の動きが一段と低調。雇用は厳しさが増加。個人消費は引き続き弱い動き。 | 0.43 (0.39) |
| 東北 | → | ↘ | → | ↘ | ↘ | ↘ | 業況は悪化。生産は急速に低下。雇用は過剰感強く厳しい状況。個人消費も弱含み。 | 0.43 |
| 関東 | ↘ | → | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | 生産はほぼ全業種で急速に低下。中小企業は一段と厳しさを増す。設備投資は減少。個人消費も一部を除き総じてさらに弱い動き。これらを受け雇用は悪化。 | 0.75 |
| 中部(東海) | → | → | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | 世界的な景気悪化から、輸出型製造業の業況が急激に悪化。雇用は製造業中心に悪化。設備投資は圧縮。個人消費や住宅関連にも波及。 | 0.82 |
| 中部(北陸) | → | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | 業況は悪化。生産は急速に低下。設備投資は凍結や先送りがみられ、抑制傾向。雇用は悪化。個人消費は買い控えなどから高額商品が不振。 | 0.7 |
| 近畿 | ↘ | → | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | アジア向け輸出も大幅な減少。設備投資にも減額等の動きが広がる中、生産は軒並み大幅減産の動き。個人消費も一段と弱く、雇用も悪化するなど、総じて後退。 | 0.69 |
| 中国 | ↘ | → | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | 自動車の急速な減産や鉄鋼の高炉休止など生産調整が本格化し、小売業では消費者の買い控えが強まるなど、総じて一段と厳しい状況。 | 0.75 |
| 四国 | → | ↘ | → | ↘ | ↘ | ↘ | 製造業では多くの業種で生産が急速に低下し、非製造業でも弱い動きとなっているほか、輸出货量が減少している企業が多くみられるなど、全体としては後退。 | 0.68 |
| 九州 | ↘ | → | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ | 生産は主力の自動車・半導体関連が急速に低下し、設備投資も凍結の動きが広がっている。雇用は一段と悪化し消費は低調に推移。 | 0.50 |
| 沖縄 | → | ↘ | ↘ | → | ↘ | ↘ | 観光需要は弱含みの動き。個人消費は、全体としては底堅く推移しているが、節約志向は持続。全業種で国内景気の影響を受け業況悪化の傾向。 | 0.32 |



有効求人倍率(平成21年1月)

※月間有効求人倍率 1月(季節調整値)資料 厚生労働省「職業安定業務統計」により作成